

# Hello! FUJISEI

No. 324

毎年、誕生月に届く「ねんきん定期便」を見ると、自分が受け取れるであろう年金額が思っている以上に少なくビックリしてしまいます。人生80年を超える超高齢社会の日本、長くなった老後生活をどうやって暮らすかが大きな問題となっています。

(公財)生命保険文化センターが発表した「平成28年度 生活保障に関する調査(速報版)」から、老後生活に対する意識についてみてみましょう。

自分の老後生活がそれまでの生活と比較して経済的にどのように変化しているかをみると、「つつましい生活」が70.1%、「同じ程度の生活」が21.4%、「経済的に豊かな生活」が2.1%となっています。

そして、夫婦2人で老後生活を送る上で必要と思われる最低日常生活費をみると、平均額は月額22.0万円の前回と同額でした。

しかし、老後もギリギリではなくゆとりのある生活を送りたいものです。そのための上乗せ額の平均は月額12.8万円で、上乗せ額を何に使うかは、「旅行やレジャー」が60.6%と最も高く、以下、「身内とのつきあい」(50.1%)、「趣味や教養」(49.7%)、「日常生活費の充実」(49.0%)の順となっています。

「老後の最低日常生活費」と「老

早めに、確実に、老後生活資金を準備!

## ゆとりある老後には 平均34.9万円が必要

後のゆとりのための上乗せ額」を合計した「ゆとりある老後生活費」は月額で平均34.9万円となっていますが、40万円以上(40~45万円未満、45~50万円未満、50万円以上の合計)という割合は27.6%と、3割近くの人はもっと必要だと考えています。

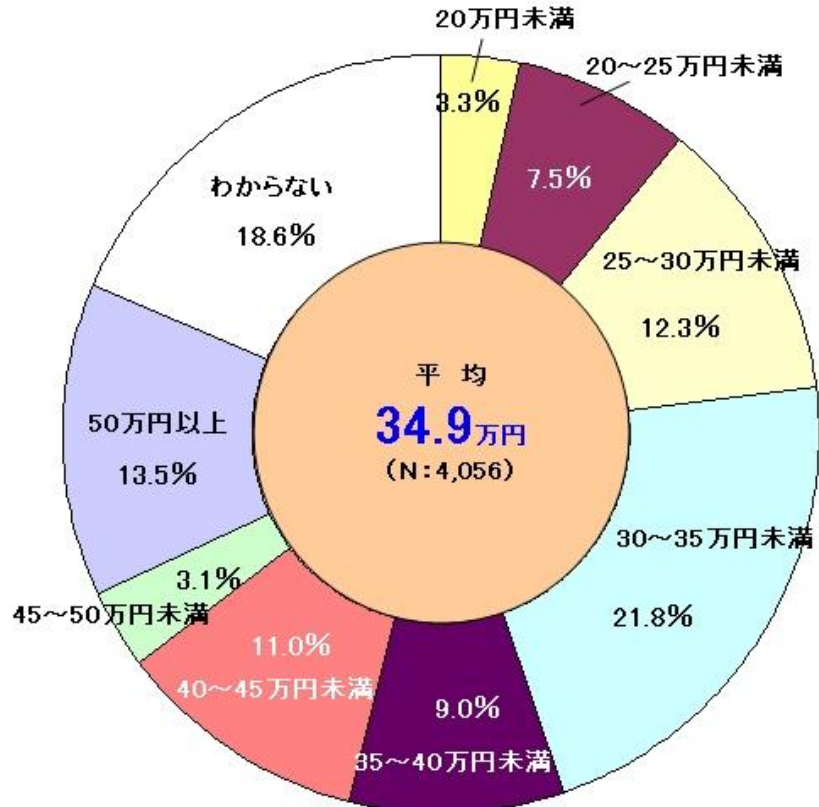
それでは、自分の老後の日常生活費を公的年金でまかなえると考えているかは、「まかなえると思う」は17.5%、「まかなえるとは思わない」は79.9%と8割の人が公的年金では

足りないと考えています。やはり、ゆとりある充実した老後生活を送るためには、別途、経済的準備が必要となります。何らかの手段で「準備している」は64.8%、「準備していない」は33.0%となっており、準備手段は、「預貯金」が45.2%と最も高く、次いで「個人年金保険・変額個人年金保険や生命保険」(44.0%)となっています。

「準備している」は平成19年以降増加傾向にあります。

### ゆとりある老後生活費

(公財)生命保険文化センター「平成28年度 生活保障に関する調査《速報版》」



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20  
神谷町MTビル